高知県立大学　看護学部　学生生活通信　2017年9月　第13号

fure-fure

高知県立大学　看護学部
Faculty of Nursing University of Kochi

U.K.
Faculty of Nursing
University of Kochi

各学年の大学生生活

■１回生■

演習風景（シーツ交換）

1回生は入学から約6か月が経過し、サークル活動やアルバイト、ボランティア活動など、少しずつ活動範囲を広げながら、大学の講義や演習にも熱心に取り組んでいます。7月末からは前期試験がありました。初めての技術試験に向けて、たくさんの学生さんが空きコマや放課後の時間を活用して、実習室での自己学習に取り組んでいました。この技術試験では、実際の患者さんを想定した状況でバイタルサインの測定、シーツ交換といった技術を実施しました。患者さんの立場になって、わかりやすく説明することや、プライバシーを尊重することなど、一つひとつの手技に対して、「なぜそうするのか？」という問いをたてながら、クラスメイトと一緒に練習し、学びを深めていました。夏休みの間も、それぞれの学生さんが大学生としての豊かな経験をして、後期を迎えられるよう願っています。

■２回生■

4月には企画委員が中心となって、新入生とのバスハイクを企画・運営しました。午前中は、いの町での紙すき体験を通して、新入生と活発な交流を図りました。さらに、午後のドッジボールでは、リーダーシップを発揮し、参加者が安全に楽しめるよう企画を練ることができました。学習面においては、前期に医学的な知識と人間、生活、環境、看護といった看護の基盤となる考え方を用いて、専門的知識・技術を学びました。特に、演習では、注射器や酸素ボンベなど医療器具に初めて触れて、緊張感を持ちながらも一生懸命取り組んでいました。8月からは『看護基盤実習』がスタートし、初めて受け持った患者さんに対し、コミュニケーションを通して看護過程や看護技術を展開しました。患者さんや家族と触れ合うなかで、看護の奥深さと自己の課題を見出していました。

ドッジボール大会

■３回生■

就職ガイダンス

3回生は、後期から開始される領域実習に向け、より専門的な看護について学んでいます。そのような中、6月3日に「看護学部保健医療系就職ガイダンス」が開催されました。写真は、ガイダンスの様子です。高知医療センター看護局長からは、採用する側がどのような人材を求めているかについて、本学教員からは、看護専門職としてキャリアアップしていく過程について話を聞きました。また、養護教諭、保健師、助産師、看護師にそれぞれ就職した先輩方6名に来ていただき、選択の決め手、採用の勝ち取り方、講義・実習・国家試験対策と平行して就職活動することについて話を聞きました。学生達は、「自分がこれからどの道に進むのか、どんなことがしたいのかについて真剣に考えようというきっかけになった」「就職が思っていたよりもすぐ近くにあって真剣に考えていかなければならないと感じた」と、将来の進路について、具体的に検討する手がかりを得られたようです。

■４回生■

4月から大学生活の最終年度がスタートしました。4回生はそれぞれの興味関心領域において、未知なる現象を探究する看護研究に1年間かけて取り組んでいきます。研究手法を用いて看護の可能性や看護の示唆を得るとともに、社会に発信する看護の意味も学びます。また、講義や演習で学んだ知と、1回生から3回生で取り組んだ看護実習を通して、人を看護するという実践知を統合する総合看護実習にも取り組みました。さらには、看護そのものや医療システムを対象とする看護管理実習を通して、看護者としての責任や専門職者としての倫理的感受性を高め、自らの看護実践や看護観を振り返りながら、学びを深めました。学生一人ひとりがこれらに取り組み続ける延長線上に、就職活動や国家試験があることを見据えながら、目指す将来に向かって有意義で実り多い1年となるように、力を合わせて頑張っています。

看護管理実習でのグループワーク

学長　野嶋佐由美

４月から南学長のあとをお引き受けして学長を務めています野嶋です。私は、高知県に生まれ、そして高知女子大学看護学部の卒業生でもあります。

高知県立大学は70年の歴史を礎に、地域とともにある大学として、地域の課題に取り組む教育研究を進めています。例えば、看護学部では、中山間地域の訪問看護師養成や在宅移行支援システムの構築、南海地震対策などを取り上げて、高知県からの支援を得て活動をしています。研究においても、教員の92.5%が外部資金を得て研究しており、臨床や地域の課題を研究テーマに取り上げています。これらの教員の活動に、学生さんが参加したり、活動成果が教育に還元されたりしています。

今、大学が大事にしている価値は「多様性」「連携」「学際性」です。そして次世代を担っていく学生さんには、これらの価値を内在化して社会に巣立っていっていただきたいと期待しております。看護が対象とする人々は、ひとりひとりが独自な存在ですから、相手の方々の価値観を理解する姿勢、尊重する姿勢が基盤となります。多様な人々に対して、その人に添ったケアを実施できる看護者になっていただきたいと思っています。看護は常にチームによって成り立っていますので、連携なくして、看護は存在しないこと、看護はひとりではできないことを深く自覚していただきたいと思っています。「チーム医療」のなかにあって、看護学の立場で、患者さんのために発信できる看護者になることを期待しています。また、一つ一つの看護ケアは多くの知識によって成り立っていますので、他の学問領域の考え方をも踏まえて、学際的な視野にたって、看護を実践していくことが大切です。学生時代から、看護学だけではなく、他の学問に触れて、教養豊かな人に育っていただければと願っています。

昨年は、創基70周年記念事業を行いましたが、このような行事のときにも、看護学部の教員、卒業生、学生が中心的な役割を担い、機動力を発揮しています。学生さんは、講義、演習、実習、そして卒業論文と“忙しい”のですが、そのなかで、時間を見出して、立志社中、ボランティア活動、インターンシップ、海外研修など、高知、国内、そして、国外へと視野を広げて活動しています。学生さんの持っているパワーに驚かされます。次世代の息吹を感じ、うれしい限りです。

このような“忙しい”なかでも積極的に活動している学生さん、そして支えてくださっているご家族の皆様方に感謝いたします。 教職員、ご家族の皆様方とともに、学生さんに“フレーフレー”と心から声援を送り続けていきたいと思います。

看護学部の活動ー国際交流

高知県立大学は、インドネシアガジャマダ大学と平成25年に大学間で覚書を調印しました。さらに、平成28年に看護学部と医学部看護学科との学部間協定を結び、活発な交流を行っています。平成28年7月には、ガジャマダ大学から母性助産領域の教員4名と助産コースの大学院生6名が本学看護学部を訪れ、国際セミナーや教員間・学生間の交流の機会を持ちました。また、さくらサイエンス事業（日本・アジア青少年サイエンス交流計画 ）では、ガジャマダ大学から4名の学生さんが、10日間の災害看護研修にも訪れました。

平成29年3月22日から30日には、学生2名と看護学部教員3名（国際交流担当教員、助産看護学領域教員）がインドネシアでの短期研修に参加しました。ガジャマダ大学が経営するシェアハウスに滞在し、インドネシアの生活や文化に触れる機会になりました。

ガジャマダ大学では、教員だけでなく、学生も「高知でのキャンパスライフ」について英語で説明しました。よさこい祭りやミレービスケットの紹介は、たいへん好評でした。また、大学の実習病院だけでなく、保健所や村の保健ポスト（ポーシャンドウ）にも連れて行っていただきました。保健所には、クリニックのような役割もあり、一般外来・救急外来や数日間入院できる施設もありました。地域看護実習で「避妊法」についての健康教育を実施する学生さんと地域住民の交流を見学することもできました。村の中心にある公民館に地域の女性40人ほどが集まっていました。積極的な住民の方々に驚きましたが、ガジャマダ大学の先生によると、インドネシアはコンドーム使用の割合が低く、性感染症の問題もあるということでした。

来る平成29年10月には、インドネシアのアンダラス大学の看護学部3回生2名が1ヶ月間、ガジャマダ大学教員3名、学生5名が5日間、看護学部に研修に来る予定です。本学学生さんとの交流の機会をたくさん作り、お互いの理解や学びを深めることを期待し、現在スケジュールを作成中です。

教育の工夫　広い視点で保健医療福祉システムを捉え、看護の専門性について考える看護管理実習

4回生の必修科目である「看護管理実習」は、システム思考を用いて保健医療福祉の専門職の取り組みを機能・本質という視点で分析・把握し、理解していく実習です。例えば「在宅への移行支援」「精神保健の自殺予防」「緩和ケア」「産科フロアとNICUの連携」について分析します。実習では、そのシステムに関わる様々な専門職者にインタビューしたり、関連する資料から情報収集を行うなどして、システム思考を用いて情報を整理し、可視化していきます。その際、鳥の目で全体を俯瞰（ふかん）しつつ、虫の目でミクロに複眼的に捉え、魚の目で流れをみることを繰り返します。この体験を通して、多職種連携や多機関連携の特徴と看護の専門性、退院支援、医療と福祉の連携など、時代とともに変化するシステムを学ぶことができます。さらに、「何のため？」と確認したり、目の前にある現象を一歩引いて俯瞰して捉える姿勢を培ってほしいと思います。

■精神看護グループ「精神領域における効果的な入院治療展開のためのシステム」

看護管理実習では、総合実習とは違った視点で、病院の特徴を踏まえたシステムを捉えることができました。メンバーの疑問や問題をグループで話し、悩み、考え合いながら解決策を導くことで、グループダイナミックスが高まりました。それを活かして自由な意見交換を重ねたため、システム分析を円滑に進めることにつながりました。看護管理実習を通して、グループでの役割分担と情報共有の大切さ、分析を重ねるおもしろさを感じました。卒業後それぞれが、病院のシステムで明らかになった看護師の役割を活かし、多職種との連携・協働を図りながら、看護の専門性を発揮したいと考えます。

４回生　大高木喜茜、岡ななみ、亀井美保、田邉佳香、橋口萌花、溝渕千帆

ボランティア活動の紹介

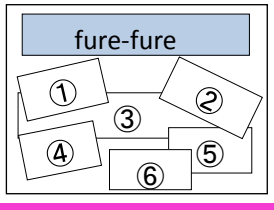
■医療センターボランティア■　看護学部では、１回生の時から高知医療センターで、玄関清掃、小児フロアの見守り、入院案内など、様々なボランティア活動を行っています。私はこれらの活動の中でも、玄関清掃に力を入れて取り組んでいます。医療センターの玄関には四季折々の花が飾られ、患者さんやご家族の方が足をとめられる姿がよく見られます。自分が清掃活動を行った場所が、様々な想いを持っておられる患者さんやご家族の憩いや癒しの場となっており、病院内で専門職として働くことだけが、患者さんを支援することではないことを学びました。３月には、こうした活動を認めていただき、高知医療センターボランティアグループハーモニーこうちより表彰していただきました。今後も、積極的にボランティア活動に参加したいと思います。

３回生　野中美希

■芸西病院　みずき祭■　私たちは、5月21日に、高知県東部にある芸西病院の病院祭に、ボランティアとして参加しました。私は、一人では参加することができない入院患者さんの付き添いをさせていただきました。その方は難聴があったので、伝え方の工夫や、仕草から患者さんの意思を読み取るなどの配慮をし、患者さんの意思の尊重を心がけました。全てのことに配慮した支援はできなかったけれど、希望を叶えることができた時の患者さんの満足そうな表情を見られたことが、私にとって最も嬉しかったことです。また、病気をもつ方の社会生活の困難さを改めて認識しました。この度の活動から得た様々な学びを今後の活動に生かしていきたいと思います。　２回生　多田桜

演習風景
（ボランティア開始に向けた学内ガイダンス）

表紙の写真



① バスハイク（体育館）：1回生
② 就職ガイダンス：３回生
③ バスハイク（土佐和紙工芸村）：1・2回生
④ 懇話会：４回生
⑤⑥老人の健康と看護 授業風景：2回生

〔ニュースレターの名前の意味〕fure-fure　学生さんを応援する気持ちを込めて、学生さんが、誰かを応援できるようになる願いを込めて、この名前を付けました。

ご意見、ご感想など、お寄せ下さい。　fure-fure-kango@cc.u-kochi.ac.jp